

【山陽小野田市教育委員会】

Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用に係る計画

1. Ⅰ人Ⅰ台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）から、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。これを実現するため、これらの教育実践と ICT のベストミックスを図り、多様な子どもたちを誰一人取り残すことない教育 ICT 環境の実現を目指す。

(1) 個別最適な学び

子どもたちが、一人ひとりの興味や関心、理解の状況等に応じて自分に合った学びや自分に必要な学びを選択し、実現できるよう学習環境の整備を行う。その実現のため、クラウドベースで学習環境を構築し、教科学習に用いることができる情報や教材のデジタル化を進めていく。

(2) 協働的な学び

探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力の育成を目指す。その実現のためクラウドを活用し、場所や時間の制約を超えた共有・協働の場を確保する。

2. GIGA 第1期の総括

本市は、令和2年度に全普通教室に無線 LAN 環境を整備し、児童生徒一人一台の端末を配布、市内全児童生徒及び教職員が全て Chromebook を使用できるよう環境を整備した。

これに併せて、令和2年に通信速度 1Gbps に対応するネットワーク環境の整備を行った。

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、児童生徒の登校が十分に行えない状況下では、積極的にオンラインでの課題の配布や授業動画の配信を行うなど、児童・生徒の学びを止めないよう取り組んできた。また、新型コロナウイルス感染症の終息後も希望者への授業配信などを引き続き行っている。

端末の導入時から全校で Google workspace を採用しており、令和5年度からは、Google for Education とパートナー自治体となり、Ⅰ人Ⅰ台端末の活用方法や教職員の研修の実施等について協力を得ている。また、Google workspace 等を活用することで、資料や課題をオンラインで配

布したり、共同で編集したり、お互いの考えや意見をリアルタイムで共有したりできるようになったことで、授業の改善につながっている。

課題としては、ICT 活用を進めていく中で生じた学校間や教員間の格差があげられる。そのため、本市では、各校の情報教育担当者からなる山陽小野田市ICT推進連絡協議会を設置し、学校間の情報共有、意見交換、好事例の横展開等を行ってきた。その結果、教員のICT活用能力は年々向上してきている。今後も、ICTを活用した授業改善や校務DXの取組をより一層進めていく。

3. 1人1台端末の利活用方法

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用を推進していく。

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化された教育環境の整備のため、継続してクラウドベースの学習環境の構築を進めていく。具体的には、Google workspace やロイロノート等の学習支援アプリの整備及び活用促進である。また中学校では国語・社会・数学・理科・英語の5教科、小学校では国語・算数・理科・社会の4教科のデジタルドリルを継続して採用し、児童生徒が一人一人の個性とペースに合わせ、最適な教材や学習方法が選択できるよう環境整備を行う。また、全ての子供一人一人の力を最大限に引き出すためのきめ細かい支援を実現するため、大学等の専門機関と連携し教育データの利活用を推進する。

(2) 児童生徒の一人一人の学びの保障

不登校生徒や障害のある児童生徒や病気療養等、特別な支援を要する児童生徒の実態に合わせて、1人1台端末の活用を進め、様々な状況におかれた児童生徒の学習機会を確保していく必要がある。各学校の状況に合わせて、授業のオンライン配信やデジタル教材の活用などを推進する。

(3) 情報リテラシー及びITリテラシーの育成

児童生徒同士や児童生徒と教員間の情報共有等について、クラウド環境の活用を推進していく。これにより Society5.0 で生きていく子どもたちにとって、必要不可欠となる情報リテラシー及びITリテラシーの育成を図っていく。